



收受年月日	議長	事務局長	書記
28・11・7			
第 号			

町村議会議員研修会報告書

日時 平成28年10月31日

場所 ビッグパレットふくしま

- 1 地方議会の課題と活性化策 ―地方創生と地方議会の役割―
読売新聞東京本社編集局企画委員 青山 彰久 氏
- 2 これからどうなる政局・政治 ～安倍政権の展望と行方
産経新聞編集局政治部長 石橋 文登 氏

1 について

脱工業化、脱都市化、田園回帰の概念の話があったが、私は考え方、価値観は否定しないが理想と現実のギャップなど難しい側面もあると思う。ポルポト政権の原始共産制や文化大革命の農村下放でもやらない限り便利な都市から農村へという概念の広がりには地域にもよるが限定的と思う。

増田寛也氏の言う自治体消滅論は自治体に対する危機意識の醸成には効果があり自治体の合併を促す意味もあるのかもしれないがいささか煽りすぎの感がある。

青山氏は東日本大震災後被災地を何度か訪れ、4年半後には南相馬の双葉食堂で皿洗いを一週間手伝い住民の話を聞いたそうだが、私なら2～3日間住民と酒を飲み激論覚悟で本音で語り合う。氏には申し訳ないがへそ曲がりの私からすれば「箔付け」の感が否めない。避難住民の帰還の話があったが鶏と卵の域を出ず非難も結構だがではどういう名案があるのか。避難解除を決定し紆余曲折を経ながら一步ずつ前に進むしかない。楢葉町も最初は住民の5パーセントだったが帰還者は少しずつ増えている。このやり方しかないが住民帰還を遅らせた大きな要因の一つはマスコミの放射線に対する不安を必要以上に増大させた報道に大きな問題がある。読売はましな方だったが同じメディア側の一人としてそれを棚上げにして帰還問題に言及するのは、適切な比喻とは言えないかもしれないが戦前、戦中の某新聞のようにさんざん戦意を煽り敗戦後は手のひら返しに批判するようなものである。

2 について

年末解散はあるのかな。私はないと思います。丁と出るか半と出るか

鈴木 孝則